

● 経済産業部

平成17年度物流効率化セミナーの開催

経済産業部では、平成17年度も独立行政法人中小企業基盤整備機構との共催により、去る11月29日(火)に那覇市内で「物流効率化セミナー」を開催しました。物流効率化セミナーは、管内の卸売業者、荷主業者及び物流事業者等が物流効率化による経営改善及び環境負荷低減の必要性について理解を深め、その実現化の取り組みを促進するために、毎年度実施しているものです。

平成17年度の物流効率化セミナーでは、BPR(プロセス改善)、CRMソリューション及びマーケティングデザイン等を数多く手掛けてこられた経営サイエンス研究所長の宮川朋憲氏から「物流プロセスの可視化とその展開」と題して講演が行われ、引き続き当局経済産業部が昨年度作成した県内独自の「経営トップのための物流コスト削減マニュアル」をベースに、株式会社湯浅コンサルティングの芝田稔子氏(コンサルタント)から県内における物流効率化に向けての取り組みについての紹介が行われました。

また、経済産業省中小企業庁商業課の佐藤桂一氏から二酸化炭素(CO²)の削減と企業競争力の強化及び中小企業の物流効率化対策の拡充・強化を目的に、平成17年10月1日から施行された「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律(公布日:7月22日)」について、同法制定の背景、審議経過及び支援措置に

ついて説明が行われました。

本セミナーには、物流効率化に関心のある多くの関係者が参加し、質疑応答では積極的な意見交換が行われました。



局の動き

● 運輸部

平成17年度年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施

大量の輸送需要が発生し、輸送機関等に人流・物流が集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されます。

このため、陸・海にわたる輸送機関等について、自主点検等を通じた安全性の向上を図るとともに、輸送安全等に対する意識の高揚を図ることを目的として「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を平成17年12月10日～平成18年1月10日まで実施しました。

沖縄総合事務局運輸部では、総点検が所期の目的を達成することができるよう①自然災害事故等発生時に乗客等の安全を確保するための体制整備状況、②テロ防止のための警戒体制及び発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況を重点点検事項としました。

具体的には、モノレール、バス、タクシー、トラック及びターミナル事業者等陸上交通関係、旅客定期航路事業者等船舶関係、政府登録ホテル等宿泊施設関係及び第一種旅行業者に対して適切な点検を行うよう指導を行ったほか、期間内に職員による立入検査を実施し、点検において発見された不備事項については、早急な改善を指示・指導しました。



沖縄都市モノレール(株)への立入検査

● 財務部

国有地の一般競争入札を実施！

財務部では、去る11月25日、未利用の国有地を有効に利用していただくため、平成17年度第2回目の一般競争入札(期間入札)による売払いを実施しました。

その結果、8物件が落札となり、またその後の先着順申込みにより1件の成約を得て、現在、14件中9件(約11億8千万円)が売却されました。

国有地の一般競争入札には2つの特徴があります。

一つ目は、入札書等を受付期間内に郵送または持参していただく『期間入札方式』により行っています。

二つ目は、相続税物納財産については、『最低売却価格を公表』しています。これは価格情報があらかじめ公表されることにより、不動産取引に不慣れな個人や中小企業等が資金計画を考えるにあたって対策をたてやすくなるので、入札に参加しやすくなります。

最低売却価格とは国が売却を希望する下限の価格であり、入札時には、この金額以上の価格で購入価格を競っていただき、最も高い価格をつけていただいた方にご購入いただくことになります。

今回の入札で落札に至らなかった物件については、現在、先着順申込みにより売り出しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。また、次の一般競争

入札は平成18年6月頃を予定しています。

◆本件に関するお問い合わせ先

財務部統括国有財産管理官
担当：金城・仲田
電話：098-866-0063
FAX：098-864-1666
ホームページ
<http://ogb.go.jp/okizaimu/>



● 開発建設部

公共建築シンポジウム2005の開催

公共建築に対する国民の意識向上を図るため、「公共建築の日」(11月11日)及び「公共建築月間」(11月)が創設されてから3年目となりました。「公共建築の日」に因んで毎年、全国各地で公共建築に関する様々なイベントが開催されています。沖縄地区でも、昨年、一昨年と公共建築パネル展を開催しました。

平成17年度は、去る11月18日に浦添市の国立劇場おきなわにおいて、シンポジウムを開催しました。シンポジウムは景観をテーマに国立劇場おきなわの設計者である高松伸氏の基調講演とパネルディスカッションを行い、その中で沖縄の景観づくりに公共建築が果たす役割、景観と公共建築のあり方など、地域性を活かした美しい景観を目指す公共建築の可能性について意見が交わされました。

基調講演では、「国立劇場おきなわ・建築の可能性」と題して高松伸氏は設計時の考え方を示すとともに景観について「翻訳する」、「つづる」、「つむぐ」、「編む」の4つの観点を提示し、そのとらえ方の必要性を強調しました。また、引き続き行われたパネルディスカッションでは、「景観づくりと公共建築」と題して、高松伸氏のほか地元建築家の山城東雄氏、沖縄県の臼井栄建築都市統括監の3人がパネリスト、開発建設部の清水営繕調査官がコーディネーターとなり景観に関する現状の課題認識や今後の沖縄における景観づくりについて活発な議論を展開しました。

当日は、事前のPRもあり予想を超える約240名の参加者が会場を埋め尽くし、景観に対する関心を高めることができたシンポジウムとなりました。

